

ぬか山いのちの森育樹

令和3年9月5日(日)

(主催) NPO 新潟県山野草をたずねる会

(共催) NPO 法人 関原里山・ぬかやま会

(協力) 公益財団法人

公益財団法人

三五自然共生基金

山口育英奨学会

「ぬか山のいのちの森」のなりたち



造成前の植樹地



重機によるマウンドの造成



植樹の様子



植樹が終わった植樹地

「ふるさとの森」を取り戻すために、開発されたまま荒れ地になっていた土地を整備して、令和2年9月に「ぬか山のいのちの森」が作られました。

約1,200平方メートルの土地に1,200本の苗木が植えられています。

苗木はぬか山本来の樹木（潜在自然植生といいます）のうちの120種類を、森のしくみに基づいて設計した配置に従って植えられています。

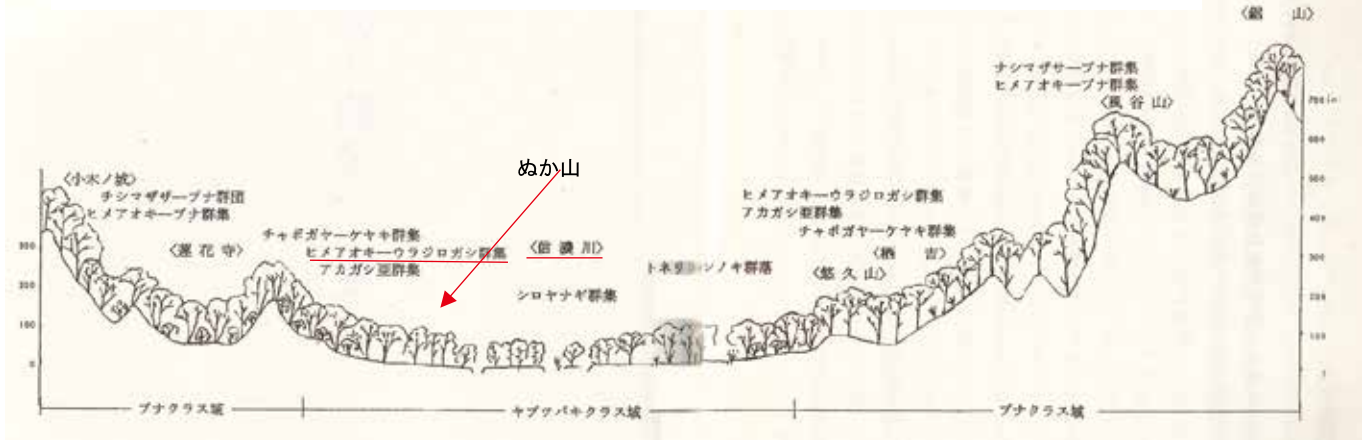
ぬか山の樹木

下の図は小木ノ城から鋸山までの断面を示しています。

ほぼ中央を信濃川が流れ、ぬか山いのちの森はそれより少し左側にあります。

この箇所には「ヒメアオキーウラジロガシ群集」と書かれています。これがぬか山いのちの森の本来の樹木（潜在自然植生）です。

「ヒメアオキーウラジロガシ群集」に属する樹木には、シロダモ、ヤブツバキ、エゴノキ等があります。



森のしくみと樹木の種類

森は中心にある高木からなる「森林群落構成種群」、それを取り囲む「マント群落構成種群」、森を囲む「ソデ群落構成種群」から構成されています。ぬか山ののちの森には、ぬか山の潜在自然植生を構成する樹木の中から、下記の4つの群落に合う樹木を選んで植えられています。

(主な森林高木:WB) スダジイ、シロダモ、コナラ、ウラジロガシ、シラカシ、コナラ、ブナ、アカガシ、オオヤマザクラ等

(主な森林低木:WS) ヒメアオキ、カヤ、ヤブツバキ、ジャノヒゲ等

(主な森林マント:WM) エノキ、クヌギ、エゴノキ、ミズナラ、ナラガシワ等

(主なソデ低木:SK) ヤマツツジ、ガクアジサイ、ウゴツクバネウツギ、ツツジ、マルバシャリンバイ等



- ・競争
- ・共存
- ・わがまま
- ・すみ分け

ぬか山のいのちの森の主な樹木

(森林高木:WB)

(アカガシ)



(イタヤカエデ)



ぬか山のいのちの森の主な樹木

(森林低木:WS)

(アオキ)



(ツバキ)



ぬか山のいのちの森の主な樹木

(森林マント:WM)

(イイギリ)



(キタコブシ)



ぬか山のいのちの森の主な樹木

(ソデ低木:SK)

(ガクアジサイ)

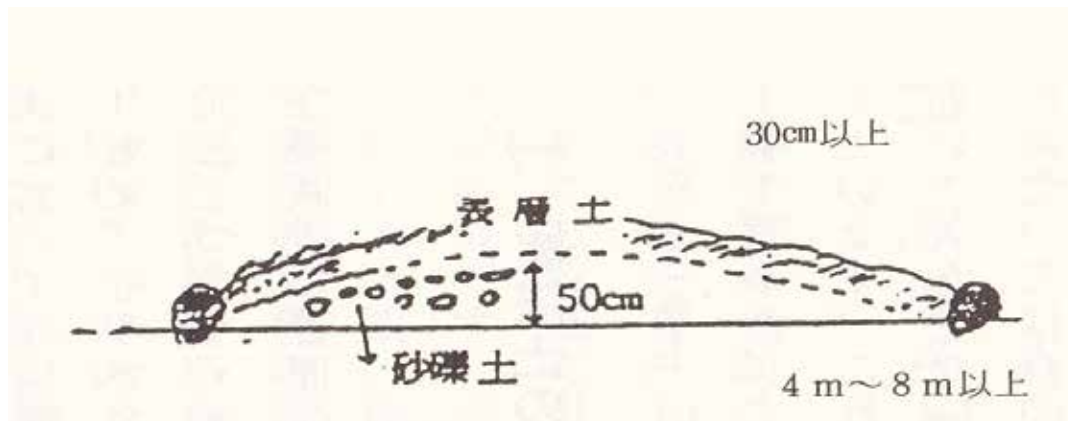


(シモツケ)



森づくりの基本

樹木が健康に育つためには、先ず水はけを考えて森の中央が高くなるように造成します。その後で表層土（表面部分の土）に腐葉土等の養分の高い土を入れて菌類や土壤微生物、土壤小動物等が生活しやすいような環境を作ります。これらの生物は植物が育つために欠かすことが出来ない大切な共存者です。



育樹の目的と服装・道具

（育樹の目的）

植樹をしてから5年程度は、樹木の成長を援けるための育樹作業が欠かせません。特にぬか山のいのちの森は痩せた土地を造成したため、腐葉土を散布したり植樹地の草取りをして樹木の成長を促す必要があります。

（育樹作業の服装と道具）

育樹作業は鎌を使うので手袋は欠かせません。また、熱中症を避けるために帽子や虫刺されを防ぐための長袖シャツも必要です。

（小鎌の持ち方）

苗木を切らないようにするために、小鎌を使って草を取ります。小鎌は刃先に近すぎると使いにくく危ないので、柄の中間からやや下付近の使いやすい場所を握って下さい。

（道具）



（小鎌の持ち方）



鎌を使った草取りのしかた

(草を取る時の注意)

苗木より草の方が大きく伸びているために、苗木がよく見えないことがあります。

苗木を切らないように注意して、草を切る位置の少し上を持って先ず苗木の周りから刈り取って下さい。

(草 を 取 る 前)



(苗木周りの草を取った後)



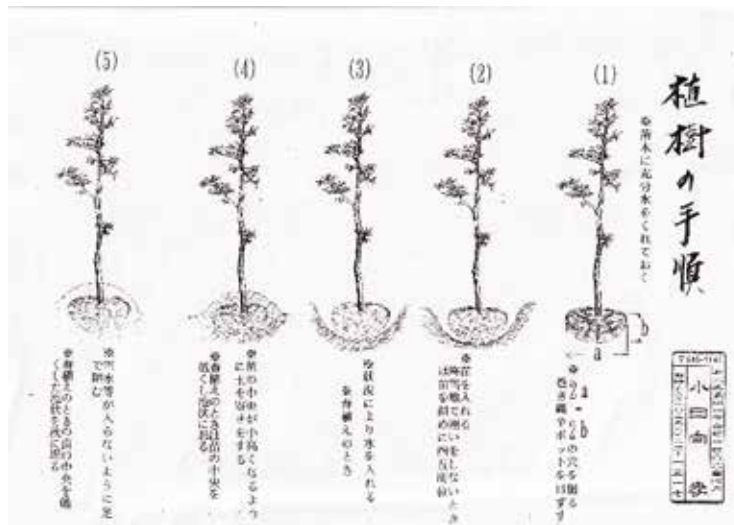
(草の取り方)



補植の仕方

(補植の目的)

最初に植えた苗木は大部分が健康に育っていますが、中には雪の重みで折れたり、虫に食べられて枯れたものがあります。苗木の間が空きすぎている場所には、下の手順で新しい苗木を植えて下さい。なお下図は雪のない地域の手順ですが、降雪地は斜面の下方に苗木の先端が来るようにして45度傾けて植えて下さい。



腐葉土のまき方

(腐葉土の役割)

腐葉土には次のような役割があります。

(1) 苗木の養分、(2) 土壌微生物の餌、(3) 雑草の防止、(4) 乾燥防止

腐葉土は苗木の根元だけでなく植樹地全体にまいて下さい。

(腐葉土のまき方)



(腐葉土をまいた後)



まとめ

私たちは人々が自然と共生し、健康で心豊かな潤いのある生活を続けられる持続可能な社会を作るために、ふるさとの木によるふるさとの森づくりを進めてきました。平成12年に悠久山蒼柴の森の植樹を始めてから、平成14年に八方台、平成20年に学びの森、平成21年に信金の森、そして令和2年にぬか山いのちの森の植樹・育樹を行ってきました。

ぬか山いのちの森以外は既に独り立ちができる森に育ちましたが、ぬか山いのちの森はこれからしばらくの間育樹作業を欠かすことができません。

また私たちは、日頃土に触れ汗を流す機会の少ない子供たちが、育樹作業を通じて自然に親しみ自然を理解して欲しいと考えています。今年の育樹作業に参加して下さいました皆様方は是非来年もご参加下さるようお願い申し上げます。